

## 国産合板商況

### 国産丸太20年振り

# 2100万<sup>3</sup>m台

農林水産省は25日、2017年木材統計を公表した。17年の住宅着工戸数は前年比減ったが、国産材丸太の供給は2127万9000<sup>3</sup>mで、1997年以来20年振りに2100<sup>3</sup>m台になった。輸入材は505万9000<sup>3</sup>mで、NZ材は増加したが、米材、北洋材、南洋材は減少した。

加したが輸入材は減少し、木材チップ用は逆に国産材が減少し輸入材が増加した。総合的に見ると、製材と合板等は国産材丸太を原料とした国内生産が増加し、木材チップは国内生産が減少し輸入製品が増えた。

17年の製材品出荷は945万7000<sup>3</sup>mで素材供給と同様に増加した。このうち製材用と合板等用は国産材は増

国産針葉樹合板の全体的な需給バランスは均衡している。これまでの納期遅れ分が4月中に解消されたことで品薄感はいま感じられない。

5月の大型連休明けからの荷動きは、大手プレカット会社からの注文が増加を続けているものの、木建ルートなどその他では精彩を欠いている。納期が遅れている旧値帯の商品が納入されたことで、売り上げ確保のため販価を現行相場に合わせず旧値のまま販売する動きもあり、一部で小安い商品も見られる。

それでも、相場全体への影響は小さく、

全体的には現行価格を堅持している。商社も潤沢に確保できていないため、販売先の実需を見ながら配分している。

国内合板メーカーは増産体制を継続。4月の針葉樹合板の在庫量が12万7700<sup>3</sup>mと2年振りに12万<sup>3</sup>mを超えたが、フロア合板など生産品目が構造用分野以外にも多様化する現状では、決して多くない。需要が活発化すれば、全ての品目がほぼ同時に引き合いが強まるので、需要が一服している今、在庫を確保している。

農林水産省が発表した4月の国産針葉樹合板の生産量は26万2000<sup>3</sup>mと2カ月連続で26万<sup>3</sup>mを超えた。このうち、針葉樹構造用合板の生産量は23万9300<sup>3</sup>m。一方、国産針葉樹合板の出荷量は25万7000<sup>3</sup>mで、2カ月連続で25万<sup>3</sup>mを超えた。このうち、針葉樹構造用合板の出荷量は23万4000<sup>3</sup>m。国内合板メーカーが在庫確保と遅れ分の納入に対応するため増産体制を継続したこと、生産・出荷とも高水準の状態が続いた。納期遅れ分をキャンセルする動きも少なく、流通段階でも秋頃から

表示説明	値下げ	横ばい	値上げ
市況状況	ラワン薄ベニヤ・・・	ラワン正寸12mm T2・・・	針葉樹12mm 3×6・・・

環境共創イニシアチブ、2018年度「断熱リノベ」支援事業の一般公募開始

一般社団法人環境共創イニシアチブは、2018年度「高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業」の一般公募受け付けを開始した。

断熱リノベ」支援事業の一般公募開始

断熱リノベ」支援事業の一般公募受け付けを開始した。

断熱リノベ」支援事業の一般公募受け付けを開始した。